

若林臨時議員提出資料

平成19年10月29日

農林水産分野の研究開発独立行政法人

農林水産業を巡る情勢

農林水産業は 国民への食料の安定供給と同時に、国土・自然環境の保全などの多面的機能を担う
他方、経済のグローバル化に対応し、国際競争力の強化が課題
近年、地球規模での食料・資源・環境の制約の下、新たな展開の可能性



農林水産分野の研究開発の重点目標

農林水産分野の研究開発の重点目標は、
農林水産業の生産性の向上と持続的発展
食の安全と消費者の信頼の確保
地球規模の食料・環境問題の解決



研究開発独立行政法人の位置付けと課題

農林水産分野の研究開発は、
製造業に比べ、投資額が小さく
独立行政法人の比重が大きい

	研究開発 投資額 (億円)	うち 独立行政 法人の比重
農林水産業	4,074	2.4%
製造業	146,392	7%

(平成17年度)

研究開発独立行政法人は国の方針
(研究基本計画、中期目標)に即して、
農林水産業の現場に直結する研究開発
(自給力の強化、コスト削減、省力・省エネ、
高品質化、食の安全確保)
次世代の農林水産業を先導するバイオ
テクノロジー等先端技術の研究開発
(イネゲノム研究などで世界をリード)
国際協力・科学技術外交の推進
(国際的連携の下、飢餓の撲滅、砂漠化
の防止、地球温暖化対策)
に重点的取組み

研究開発独立行政法人が、
研究開発力を向上させるため
には、適正な規模の組織
体制の下で、

- 効率的な運営
 - 組織戦略の明確化
 - 人材の育成と志気の高揚
- を図ることが重要